



《インタビュー》
 時代小説作家 鳥越碧さんが語る！ p. 1
 お知らせ／講座／展示／おはなし会 p. 2～3
 今月のピックアップ
 「よこはま大学リレー講座 2009」募集中！ p. 4
 @Libミニブックリスト(20)
 「国際トライアスロン大会によせて」 p. 4
 ホームページ
<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/> 2009年9月号

《インタビュー》

時代小説作家 鳥越碧さんが語る！

～ わたし流、図書館のつかい方 ～

青葉区にお住まいの鳥越碧さんは、地元の山内図書館をご活用くださっています。作家の方は、図書館をどのように利用されているのでしょうか？ 鳥越さん流の図書館活用法をご紹介します。

〔図書館〕：山内図書館をよく利用されているのですか？

〔鳥越さん〕：はい、とてもよく利用しています。私は書きたい本のテーマが決まると、まず図書館で関連する本を調べてお借りします。貸出延長も利用してじっくり読みながら、コピーでは足りない、手元に置きたい本を選んで、インターネットで購入します。図書館では、自分に必要な本かどうか、実際に手にとって見る事ができるので本当に助かっています。



『花筏』「松子はいくつになっても女そのものの人だったと思います。」(鳥越さん・談)

〔図書館〕：実際にどのようにお使いになっているのでしょうか？

〔鳥越さん〕：検索システムで、横浜市立図書館 18 館の蔵書を調べて、予約で取り寄せてもらいます。見つからない資料については、職員の方に尋ねて調べてもらうこともあります。

〔図書館〕：調べたものは、どうやって小説に活かされるのですか？

〔鳥越さん〕：私が書いているのは時代小説なので、自由に描いている部分もありますが、基本的には資料を調べます。史実については自分で年表などを作っています。ノートの見開き2ページを1年分にして。そこに読んだ資料からわかった事などをどんどん書き入れていきます。今回もノート6冊ほどの分量になりました。調査には、執筆と同じくらいの時間をかけています。自分が魅力を感じる人物について小説を書くのはもちろんこと、そのために必要な資料を読んでいる時も、とっても楽しいですね。



「検索の入力の仕方が、少し難しいですね。ほんのちょっとした言葉の違いで、見つけられない時があります。」(鳥越さん・談)

〔図書館〕：快くインタビューにご協力くださりまして、本当にありがとうございました！

図書館を上手に活用いただいて、冥利につきます思いがします。仕事や学習、楽しみのためにも、その方の役に立つ何らかの資料を提供する事ができれば、図書館としてこんな嬉しいことはありません。また、谷崎潤一郎夫人の松子を描いた、最新刊の『花筏』についてのお話などもうかがいました。今は坂本龍馬の妻・おりょうについての小説に取り組み、こちらは 11 月下旬頃に刊行される予定です。次回作も楽しみにお待ちしております。ありがとうございました。

鳥越碧(とりごえ みどり)氏

福岡県出身。横浜市青葉区在住。同志社女子大学卒業。商社勤務を経て、1990年、尾形光琳の生涯を描いた『雁金屋草紙』により、第一回時代小説大賞を受賞。近著に、『想ひ草』『鶯がずら』『一葉』『漱石の妻』『兄いもうと』『花筏』(いずれも講談社刊)など。